

新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、2020年4月に政府が緊急事態宣言を
発出して以降、オフィス勤務者を中心に在宅勤務が急速に広がりました。今後のウイル
ス感染の終息が見通せない中、感染予防策としての在宅勤務は今後もしばらくの間、必
要となると考えられます。また、3密を避ける目的で多くの企業で導入されたWEBツ
ールについては、活用の仕方によっては、企業の生産性向上に一定のメリットがあるこ
とを体験した企業も多いのではないのでしょうか。

在宅勤務をはじめとしたテレワーク環境を整備することは、コロナ禍のような事態で
も事業を継続するBCPの観点に加えて、在宅勤務が可能となることで仕事と育児、介護
などの両立が必要な人材の定着、さらには将来の両立を見据えて在宅勤務ができる環
境で働きたいと考える人材の採用にも寄与すると考えられます。

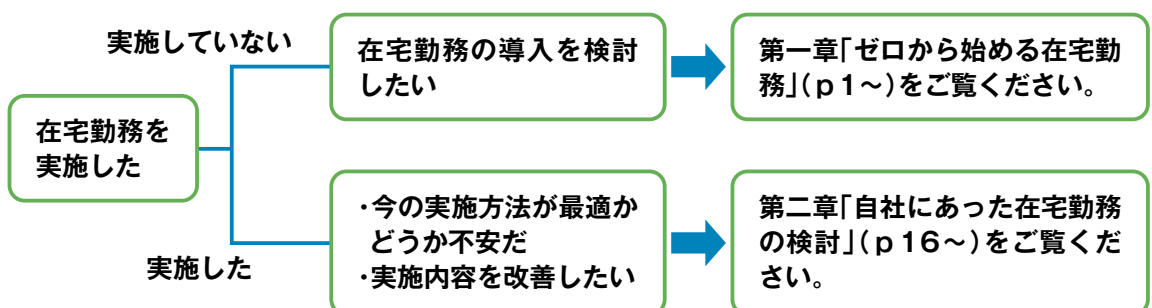
本年7月に当会で実施した調査では、在宅勤務を実施していない企業が約35%あり、
その大きな要因が働く環境の未整備によるものと推察されます。また、実施してもICTな
どの環境の未整備により業務効率や生産性が下がったという声も多く聞かれました。

こうした状況を受け、在宅勤務を導入する手順と感染防止対策に加えて、生産性を維
持しながら在宅勤務を実施するためのポイントを整理しました。在宅勤務を導入する、
あるいは継続的な活用を検討中の企業の皆さまのご参考になれば幸いです。

2020年12月
愛知県経営者協会

当ガイドの活用の仕方

当ガイドは、第一章「ゼロから始める在宅勤務」、第二章「自社にあった在宅勤務の検
討」の二章で構成しています。貴社の状況に応じて、ご利用下さい。



目次

第一章	ゼロから始める在宅勤務	1
ステップ1	目的、対象者、対象業務の明確化	2
1-1	在宅勤務を導入する目的の明確化	2
1-2	在宅勤務の対象者・業務の決定	2
ステップ2	ルールの整備	4
2-1	労働時間管理の方法	4
2-2	費用負担の取り決め	5
2-3	在宅勤務と労働災害	7
2-4	その他の留意点	8
ステップ3	ICT環境の整備	10
3-1	導入方式による比較	10
3-2	在宅勤務を支援する便利なツール	11
3-3	セキュリティ対策の進め方	13
ステップ4	評価・改善の進め方	14
第二章	自社にあった在宅勤務の検討	16
1	在宅勤務でよく聞かれた不満	16
2	在宅勤務でわかった「不要な業務の存在」「働きやすさ」	17
3	自社にあった在宅勤務の検討	17
4	目的に応じた在宅勤務の検討	18
4-1	業務に集中して効率よく働く	18
4-2	両立支援、場所にとられない働き方	19
4-3	定着してほしい人材の引き留め策	20
5	在宅勤務における“人”の問題の考え方	21
5-1	教育	21
5-2	健康管理	22
5-3	人事評価	23
6	定着にあたって留意すべき制度上の課題	25
6-1	労働生産性をチェックする必要性	25
6-2	在宅勤務の対象とならない従業員とのバランス	26
6-3	在宅勤務手当、通勤手当の支給についての検討	26
	在宅勤務の導入事例	27
■	業務に集中して効率よく働く	27
■	育児・介護・病気との両立支援	27
■	定着してほしい人材の引き留め策	27